

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品製造業

1. <岩手県 めん類 >
お土産品の売上はコロナ前に戻りつつあるが、お中元商戦は非常に厳しい売上の結果であった。値上げの影響が生活防衛なのか、贈り物の慣習も無くなりつつある状況である。
2. <神奈川県 ひもの >
中元商戦期に入ったが前半の状況を見るに、前年並みか若干減のところが多く大幅な売上増加や収益好転した会社は見られない。諸物価の値上がりと猛暑が影響してか消費者の購買意欲は低調。
3. <富山県 豆腐 >
消費者の節約志向と低価格の細分化により、価格転嫁後、売上が伸びていない。原材料・エネルギー価格の高騰などが要因となり、県外の異業種企業と資本業務提携をして事業継承を行った県内企業がある。
4. <石川県 パン・菓子 >
地域のイベント等は通常通りに戻っているが、夏場の需要の落ち込みと猛暑による影響から一服状態である。さらに物価上昇等による嗜好品である菓子の売上は厳しく収益面とも前年並みの結果となっている。
5. <愛媛県 菓子 >
人の移動が増え、手土産等の需要は回復しつつあるが、お中元商戦は、菓子スイーツ部門に全国の菓子業者が市場に食い込むため年々厳しさを増している。さらに酷暑も売上減の一因になっていると思われる。
6. <福岡県 パン・菓子 >
観光地や街の中心地は、外国の観光客を含めよく動いているが、地方はなかなかその恩恵を感じられない。異常気象ともいえる大雨や猛暑により、改善の見込みがまだ浅い。

繊維・同製品製造業

7. <秋田県 繊維 >
洋服の国内需要が非常に良くない状況にあり、国内を中心に展開しているメーカーの業況が厳しいため、この先の受注確保について危惧している。
8. <栃木県 絹・レース・繊維粗製品 >
今月から徐々に来春シーズン向けの動きが出てきている。コロナ前の動きと比べるとまだまだではあるが、アパレル向けの市場も下げ止まってきたような印象で経済活動の好転を期待できると感じている。
9. <三重県 衣料縫製 >
人件費の上昇は工場にとっては厳しい。諸物価の値上がりにより、全ての物の値段が上がり、電気量は2倍以上になった。また、ガソリン、ミシン部品も値上がりし、経営を悪化させている。
10. <奈良県 繊維 >
大手百貨店、専門店ともに前年実績を上回っている所が多く、外出機会の増加で衣料品、服飾雑貨の盛夏アイテムなどの売れ行きが好調だった様子。業界としても引き続き好調を維持しているメーカーが多い。
11. <島根県 アパレル等 >
生産量は、昨年にくらべて30%増加。昨年は技能実習生の人員不足もあり生産量を調整したが、現在はある程度人員も増え、また技能実習生のレベルも向上してきたので生産量も増やすことが出来ている。
12. <徳島県 縫製 >
生産数量は受注数の波があるため、生産数量の平準化が難しい状況である。繁忙期と閑散期で従業員数の調整が必要になり、やりくりが難しい生産体制となる。

木材・木製品製造業

13. <青森県 製材 >
木材市場はウッドショック以前の状況となり、外材主体に戻った状態が続いている。そのために県産材（特にスギ材丸太）の在庫を多く抱えており、製品の出荷もままならない状態。
14. <栃木県 家具・建具 >
建具製造業者の受注減少が顕著となっている。材料価格はウッドショック前までは戻らず、収益状況は厳しい状態が続いている。資金繰り悪化先が増加しており、懸念材料となっている。
15. <岐阜県 木材・木製品 >
9月以降の見通しが悪い。状況は悪く見通しも良くない。木材業界全般で在庫過多となり、値崩れが進行中で酷い状況だと思う。地道に組合員と共に状況を見極め乗り切りたい。

16. <徳島県 木材>
業界は非常に悪く、先を見通す事が出来ない。今、木材の種類、価格とも安定してきているが、やはり高止まり傾向がまだ続いており、新築よりリフォームのご用命が多くなる傾向にある。
17. <香川県 家具>
原材料の高騰が未だ続く中（円安の影響大）製品に価格転嫁しきれておらず、家具業界全般的に業況悪化している。よって収益は悪化し、改善の見通しもたっていない。
18. <鹿児島県 木材・木製品>
素材・製材製品の入荷量及び販売量共に減退した。さらに販売価格についても昨年同月比で大きく下落している。これは、末端木材需要不振と天候不順による素材生産意欲の低迷等が要因と考えられる。

紙・紙加工品製造業

19. <北海道 加工紙>
悪いながらも荷動きが多少活発化している。観光客は増加しているが、人手不足感がよりいっそう強まっている。一部の大手グループは量の確保に動いている。
20. <群馬県 紙製品>
低迷していた販売数量に改善がみられ、売上高は増加した。ただ、食品や家庭用品関係では買い控えの動きもあってか販売数量は減少している。
21. <東京都 紙製品>
紙媒体で情報を直接伝える方がお客様に安心感と親近感与えるとしてDM需要が伸びている。封筒メーカーも多品種、多様途、デザイン性の豊富さを追及すればまだまだ道は拓けると考えている。
22. <愛知県 紙器、段ボール>
全般的に前年並からやや悪い感じである。土産物関係については増加しているが、人出の割に引き合いが少ない。財布の紐が堅くなり、節約志向で物の動きが全般的に悪くなっている気がする。
23. <京都府 紙製容器>
前月に引き続き外箱（段ボール箱）は増加した一方、内箱（貼箱・印刷箱）は減少傾向にある。業界においてはM&Aの動きが活発化しており、その動きが注視される。
24. <愛媛県 機械すき和紙>
衛生用紙の国内出荷は、前年同月比1.8%増、2ヶ月連続のプラスとなった。

印刷

25. <滋賀県 印刷>
原材料、用紙は何段階も値上がりを繰り返しているため、お客様に何度も値上げを依頼できない分、利益が薄く、世間的には景気が上向きな様子が伝えられていても、本業界は厳しい業況が続いている。
26. <香川県 印刷>
観光客が戻り街は賑わい始めたが、消費から印刷物への戻りがまだ本格的では無く、デジタル化の影響が大きいと見られる。新聞広告もB4サイズが中心で大きな広告はほぼ入らなくなっている。
27. <愛媛県 印刷>
仕入れ材料関係の高騰は続いており、価格転嫁出来るかが課題となる。ある程度転嫁は進んでいる様だが、高騰は繰り返している状況であり、息切れしないで転嫁し続けることが出来るかが課題である。
28. <高知県 印刷>
一部県外需要で明るさも見られるが県内需要、官公需及び一般印刷物共に良くない。又、原材料の高騰が販売価格に十分に反映できていなく厳しい経営状況が継続している。
29. <長崎県 印刷>
売上高はやや増加しているが、原材料価格と光熱費の高騰の影響が続き収益状況の好転までは至らない状況である。今後価格への転嫁率の回復が進めば、業界の景況も好転に繋がると期待している。
30. <宮崎県 印刷・同関連>
業界全体的に売上金額は伸びているものの、それを上回って原価が上昇しているため、各社利益の確保に困窮している状態である。官公庁の入札においても、原材料の高騰分が反映されていると言いがたい。

化学・ゴム

31. <群馬県 ゴム製品>
自動車部品関連に好転の兆しがみられる。
32. <長野県 プラスチック製品>
7月の売り上げに関しては、値上げ交渉が完了しその効果もあり増加している。収益面は値上げ交渉の効果が大きく大幅増となっている。

33. <愛知県 高圧ガス >
荷動きに大きな変動は無い。円安、エネルギーコスト上昇に伴う価格是正については、一旦落ち着いた状況となっているが、一部ガスについては品薄状態が続いており、メーカー動向が注目される。
34. <大阪府 石鹼洗剤 >
年初からコロナ禍が収束傾向に入り、メーカー各社は新製品で高付加価値商材を投入、インバウンドも回復し、積極販売へと意欲を燃やしていたが、経費負担増がもたらす景況感の低迷は避けられない。
35. <和歌山県 化学工業 >
想定以上に中国の景気は悪いと思われるが、前年同月比においては出荷量は微減、出荷額は増となっている。有機フッ素化合物の使用に対する規制が今後、業界にとって大きな問題となることが予想される。
36. <岡山県 ゴム >
前期に比べ生産高は戻ってきているものの、半導体不足の影響は取引先によっては残っている。原材料、労務費の上昇・高止まりは続き、収益的には売上増加に比して、改善となっていない。

窯業・土石製品製造業

37. <埼玉県 窯業・土石製品 >
今年3月に実施した値上がり分が、まだ販売価格に充分反映されていない。表示価格は値上げ後の価格に改定されるので、今後は新価格での出荷が増加すると思われる。
38. <千葉県 生コン >
建設現場の人手不足などによる工程や着工の遅延により、出荷が落ち込んでいたが、ようやく工事が進み出した。原材料費の急騰が経営を圧迫、早急に生コン価格への転嫁が必要である。
39. <石川県 砕石 >
令和5年4月に砕石m³あたりの金額を上げてもらったが、ほかの物価も上がり苦しい経営が続いている。民間工業団地造成工事及び道路改良工事などの需要が落ち着き横ばいであった。
40. <滋賀県 陶器製品 >
陶土及び釉薬ともに供給量は前年並みとなり、動きはまずまずといったところ。原材料費や燃料費コストの上昇分は製品価格への転嫁が進んだが、秋の繁忙期を控えて売上への影響が心配である。
41. <兵庫県 窯業・土石製品 >
業界全体としては、原材料等の値上がりにより旧物件の出荷が赤字になっているのもある。道路関係の公共物件は少ないが、高潮対策関連等の港湾関連物件は多い。
42. <沖縄県 ガラス製品 >
三連休や夏休みに多くの観光客が訪れ、売上は前年比20%ほど増加。コロナ前にはまだ及ばないが順調に回復。各種体験等のコト消費が特に伸びており、受入人数やメニューを拡大して夏休みに備えている。

鉄鋼・金属製造業

43. <青森県 鉄鋼 >
鋼材価格は高止まり状態が続き、ゼネコンからの指値や元請の受注競争もあり、値上がり分を受注価格へ反映することが難しい状況。適正な利益を確保する為に、原価管理はより注意が必要。
44. <福島県 鉄鋼 >
前月に続いて、鋼材や副資材の高騰・消耗品高騰となり、利益なき繁忙が続いている。平成初期には全国の認定工場が約4200社あったが、現在は2200社となるなど厳しい状況。
45. <千葉県 機械部品 >
7月の売上は、前年度比プラスだが、前月比マイナスとなっており、利益率は共に落ちている。エネルギー価格や原材料費の高騰に値上げが中々追い付かない。
46. <山梨県 金属製品 >
半導体関連・自動車関連製品ともに受注量の低迷が続いており、前年同月と比べ売上げ・収益状況ともに▲10%となった。
47. <新潟県 作業工具 >
原材料費の高止まりと燃料費の負担増により収益面は悪化している。物価高による家計の引き締めで、ホームセンター向けの利器工匠具、プラスチック製品はレジャー関連商品を除き低調である。
48. <高知県 金属製品 >
原材料やエネルギー価格に連動して販売価格は上昇しているが、一時的な取引減などにより売り上げが伸びなかったことから、収益は横ばいから減少の推移となっている。

一般機器製造業

49. <山形県 その他の電気機械器具 >
経費増を織り込んだ販売価格が上昇してきている。雇用人員が増加してはいるが、未だに人手不足の状況は続いている。

50. <茨城県 生産用機械 >
対象7組合員(製造会社)の売上高の状況は前年同月比で4社増加、3社減少であった。団地全体の売上高は、主要取引先からの受注が引き続き増加し、4カ月連続で前年同月比で増収となった。
51. <栃木県 一般機械器具 >
目覚ましいほどの景況の好転感はないが、半導体不足の解消がされつつあるようで、結果的に生産が順調になりつつあるように感じる。だが、円安による物価上昇はマイナス効果のほうが大きいと感じる。
52. <愛知県 一般機器 >
自動車メーカーの工場稼働停止もなくなり、年間計画達成に向けた通常の実業体制が戻ってきた。部品生産関係の仕事は毎日フル操業の状態が続き、活気が出てきた。
53. <三重県 一般機器 >
製造業の中では、工作機械は少し良くなってきている。盆休みの設備改造の関係も増えてきた。国内の自動車関連は未だ厳しいが、海外向けは良くなってきている。
54. <大阪府 一般産業機械 >
自動車業界、建設機械関係が徐々に受注が増えてきた。一時に比べると新車の納品も早くなってきている。

電気機器製造業

55. <山梨県 電気機械器具 >
医療関係機器の開発が進んでおらず、量産化の目途も立っていないことから、当面の間は厳しい状況が続くことを予測している。製造業全体が冷え切っており、企業努力だけではカバーできない状況である。
56. <静岡県 電気機械器具 >
冷蔵庫は出荷減少の影響により生産の前年割れが続いている。家庭用エアコンは出荷金額以上に台数減少が大きく、組合員の売上に影響している。業務用エアコンは輸出の在庫調整などにより生産減となった。
57. <愛知県 電気機器 >
7月に入り、得意先状況に変化があった。得意先の在庫増加により受注再現先が増加した。売上は減少傾向で、在庫は大きく変わらず。販売価格は値上げを認める先が増えたが、大きな収益改善には至らない。
58. <三重県 電気機器 >
先月より受発注が激減し、昨年比として25%ダウンで推移している。一時的な動きかと思うが、厳しい状況が続いている。
59. <富山県 電子部品・デバイス >
電子部品業界は、鉱工業生産指数で表されるように、景況感の後退が鮮明になっている。受注が少なく、同時に人手不足であり、満足な生産が行えていない。
60. <広島県 電気機械器具 >
売上は前月比+3%、前年同月比▲5%となった。産業用機械・産業用ロボット・工作機械等、製造業向け受注が低調で、機械、部品ともに売上は低調に推移している。

輸送用機器製造業

61. <静岡県 輸送用機械器具 >
全体的には半導体の影響も軽減されて生産が回復。自動車部品関連の操業度は上がっている。自動車業界においてモデルチェンジの時期となり業界全体に生産増の状況となっている。
62. <愛知県 輸送機器 >
組合員の業況としては、10カ月振りに新幹線車両の工程が再開され、設備操業度が上がり、サプライチェーンも繋がり、部品納品が始まっている。この先、新幹線車両の量産へつなげる計画。
63. <兵庫県 輸送用機械器具 >
前年同月比35%の増収。今月の売上高は前月より34%程度増え、近年では考えられない額となった。今後に向けては少々不安もあるが、今回のような売上高が継続することを期待したい。
64. <岡山県 工作機械 >
業況はほぼ前年並みキープしている組合員が多い。材料費等の値上以前から事前に計画していた設備投資が進行しつつある。一方で人員確保面では相変わらず苦戦中。
65. <山口県 鉄道車輛・同部品 >
鉄道車両関係は海外からの受注があり順調に推移しているが、受注量は2025年度から減少となる見通し。半導体製造装置の部品製造業においては、当初よりも大幅に受注量が減少しており、今後の動向を注視。
66. <大分県 造船 >
工事期間短縮により各組合員増員を計っているが、どの業種も人材確保は出来ていない。おのずと、外国人特定技能者、外国人実習生での増員に頼っている。

その他の製造業

67. <福島県 漆器 >
来店客の売上は徐々に消費税増税時を越した。見るだけの客が増える一方、購入客の客単価は高い。ネット販売は振るわなかった。百貨店の動きは全くない。
68. <東京都 靴 >
毎年この時期は秋物の生産に追われる時であるが、今期は部材調達の不安定さと外注加工の納品遅れなどから勢いに欠ける。コロナ禍により産業全体の分業構造が変わってしまったのが影響している。
69. <神奈川県 その他製造業 >
先月と変わらず受注も回復の兆しなく横ばい状態。又、人材も不足している企業も多々あり、製造業への転職組も増えているが雇い入れても続かないケースが多く、人材不足も厳しい状況。
70. <石川県 プラスチック製品 >
全体的な動きはコロナ禍前に戻りつつあるものの、収益の確保、人材の確保の問題が出てきており、営業していくうえでシステムの見直しが迫られている。
71. <福井県 眼鏡 >
アメリカなどからのOEM受注が増加し、産地全体では好調。しかし、中間加工事業者の廃業により、生産能力が低下しているため、リードタイムはさらに伸びている。
72. <兵庫県 その他製造業 >
OEMの仕事は、かなり好転している。現在は、サンプル作製後の本生産に入って忙しいメーカーも多い。一方、材料の高騰や人件費・光熱費など経費が高く、利益は相変わらず厳しい状況である。

《非製造業》

卸売業

73. <北海道 各種商品 >
インバウンドの増加とコロナが5類に移行したことによる国内消費活動の進展により、全般的に売上高は増加している。一方で感染症は増加を続けており、検査機器・試薬等の売上も増加している。
74. <広島県 電設資材 >
官公庁物件の見積が継続して増加傾向にある。この時期は毎年エアコンの更新工事が増加する中、今年は特に節電に対する省エネ高機能エアコンの提案が重要だと思われる。
75. <山口県 乾物 >
倉庫売上は前年同月及びコロナ禍に比して大幅増加となり、電気料金の値上げに対応ができていない。8月以降売上はやや減少してくると予想されるので年間を通した総売上を注視していく必要がある。
76. <熊本県 各種商品 >
燃料高・原材料価格上昇に伴う経費増となり、売上高はやや増加しているものの収益は上がっていない。特に仕入価格の高止まりや部材の入手難などが製造や建設関連業種に悪影響となっている。
77. <大分県 食糧集荷 >
物価上昇に伴い、包材、運賃等は上昇しているが、米（精米）の単価は据え置きのみである。新米が出回り始めたが、スーパーの販売価格は商談の前から決められており、交渉ができない状況である。
78. <沖縄県 青果 >
入域観光客の増加により、引き続き外食、業務向け需要は伸びている。また、国産夏果実の出回りもあるが県産マンゴの本格的な時期に入りお中元需要と重なり引き合いは活発である。

小売業

79. <北海道 各種食料品 >
観光のお客様が増えて、料理店・納品業者が忙しくなっている。ホテルの利用者数もコロナ前の状況に近づいてきている。仕入価格が上がり利益額が厳しいが、売上は良くなっている。
80. <宮城県 家電 >
地域電器店では個展や夏のフェアを開催している。電気代高騰に伴い、省エネ家電に買い替える家庭が急増している。省エネ家電購入キャンペーン等を利用することが販売拡大に繋がっている。
81. <静岡県 鮮魚 >
売り上げは前年を上回ったものの原材料の高止まりなどにより収益状況は厳しいものとなった。業界全体で人手不足の状況にあり、需要及び業績回復の足かせとなりそう。
82. <奈良県 配置薬 >
真夏向け商品の動きは良く、特に、熱中症予防に向けた飲料系の引き合いは上向いている。しかし、仕入単価の上昇は未だに続き、ガソリンをはじめ、出張時の宿泊など、経費増で苦慮している。
83. <大阪府 二輪自動車 >
前月よりも販売が更に落ちてきている。引き続き、発注していた商品が次々に入荷しているので在庫過多である。そのため前月よりも値引き販売が増加しており、利益も減少して資金繰りも悪くなっている。
84. <宮崎県 小売商業 >
大雨の影響で県外産の入荷が少なく、特に葉物野菜など品が悪いうえに値段も高い。全体的に商品の値段が高いので、売上高としては増加しているが、赤字覚悟で価格設定することもあるので利益は出ない。

商店街

85. <岩手県 商店街 >
値上げラッシュによる消費マインドの低下と梅雨明け後の猛暑による悪影響が懸念されたが、組合のクレジット・電子マネー取扱高は、前年比13.1%増と5カ月ぶりに前年を上回った。
86. <長野県 商店街 >
猛暑の影響か日中の商店街の人手が減少している。EC販売を並行している店舗は全体の売上の内でECが占める割合が増加している。
87. <京都府 商店街 >
外国人観光客が増えている。当商店街も含めて中心市街地においては、多くの外国人観光客は物販購入よりも体験型観光に消費するようだ。一般消費者においては物価高騰で購買意欲は低いようだ。

88. <山口県 商店街 >
青果業は異常気象の影響で入荷量が大幅に減少し、販売する商品が無い状態が続いている。ほとんどの店舗で売上は減少している。猛暑により熱中症を恐れてか買い物客が減少、益々売上が減少する。
89. <大分県 商店街 >
7月度は概ね人出も戻ってきている。出店意欲も出てきて商店街の店舗が空いたら色々と話しがきてる様だ。ただ、求人を出しても中々集まらない状況。消費も物価高で財布の紐は固いと感じてる店主が多い。
90. <鹿児島県 商店街 >
新規オープン店舗が2件あり、組合に加入した。酷暑の影響から客数が伸び悩んでおり、厳しい状況が続いているが、8月末開催予定の祭りで、地域内外のお客様に元気な姿を見せられるよう取り組んでいる。

サービス業

91. <宮城県 自動車整備 >
各自動車メーカーからの新車の工場出荷及び登録台数が徐々に回復している。業界の基盤となる車検台数に大きな減少は見られないが、値上げが続いており、整備売上に影響が出ないか心配である。
92. <山形県 情報処理サービス >
令和5年度山形県地域・共同受注促進事業費補助金の採択を受け、自社のDX度合いを自己診断できる「中小企業のIT活用診断サービス」開発を開始。ITフェアを開催する等、外部評価も上がっている。
93. <山梨県 宿泊 >
観光客・ビジネス客ともに多く施設の稼働率は好調であるが、物価高騰による収益状況の悪化、人手不足が深刻な課題である。
94. <島根県 ホテル >
全国旅行支援の駆け込み需要とリベンジ消費による需要があり前半は稼働もよく単価も上がった。後半は観光需要の勢いがなくなりビジネス需要で何とか稼働を維持することができた。
95. <高知県 普通洗濯 >
売上は全体として横ばい。単価アップしたが客数は減少傾向。消費者の儉約志向は高まっている。新型コロナにより、リモートワーク、冠婚葬祭需要減少は続くが、宿泊宴会需要が回復傾向にある。
96. <佐賀県 サービス >
インボイス制度に対する企業の認知度が高まってきて発注が増加してきた。企業ごとにシステムを開発するため、今後は作業の繁忙期に入ることが予想されるが、SEの人材不足の状況は続いている。

建設業

97. <青森県 管工事 >
例年、当業界の7月は繁忙期となる。しかし、諸官庁での発注数量は例年通りだが、民間の住宅新築工事は減少。青森県内の人口減少と比例するように仕事量も減少しており、将来見通しを危惧している。
98. <岩手県 土木工事 >
相変わらず公共工事の土木は競争が厳しく落札困難な状況である。業況については特に変わりはない。受注件数は若干多いものの、1件あたりの金額が小さいため、売上高の増加を目指し今後も努力を続ける。
99. <福島県 電気通信工事 >
営業職も技術職も仕事量が増え、忙しい月となった。期待していたほど具体的な受注や売上に繋がらなかったが、収益状況に若干の改善が見え始めたので働き方改革と上手に組み合わせたい。
100. <富山県 鉄骨・鉄筋工事 >
首都圏などの大型物件は、著しい建設コスト上昇による計画の延期や中止は少ないが、中小鉄骨加工業者はコスト上昇の影響をまろに受けている。また地場ゼネコンも価格競争で厳しい状況が続いている。
101. <京都府 一般土木建築工事 >
工事原価の上昇が継続的な課題となっている。施主に提示する見積り価格も徐々に上昇しており、従前に比べて上げざるを得ない状況である。お客さまとの価格交渉・契約変更には苦慮している。
102. <和歌山県 総合工事 >
公共工事の受注高は先月に引き続き増加している。ただ、業者間の格差が拡大傾向にあり、手持ち工事の無い業者が増加傾向にある。この先発注量が減少した場合の下請け工事の確保が懸念される。

運輸業

103. <東京都 港湾旅客運送 >
屋形船は夏のシーズンということもあり、客足が多くなってきた。船は空いているが、人手不足によりお断りしている船宿が多い。
104. <新潟県 一般乗用旅客自動車運送 >
全体としてタクシー需要は増加している。夜の飲食店街の人出も増えるにつれタクシー需要も多くなり、曜日によっては対応できにくい状況も現出するなど運転者数の減少の影響が出始めている。

105. < 鳥 取 県 貨物輸送 >
燃料価格は、政府激減緩和補助金が縮小されたことや円安影響を受け、6月以降増加、8月の燃料価格も大幅な増加が見込まれており、2024年問題によるコスト負担増とともに懸念材料が山積している。
106. < 山 口 県 一般貨物自動車運送 >
自動車関連の組合輸送取扱高は前年比28%の増加となった。部品調達については大分改善されたが、燃料高騰及びそれに伴う幾多のコスト負担は輸送業において大きな経営の圧迫となる。
107. < 長 崎 県 運送 >
7月に入り6月よりも荷動きは改善したが、燃料費の高騰が続き収益は悪化しており、厳しい状況が続いている。また9月末には政府の燃料費補助金が終了予定であり、更なる負担増も見込まれる。
108. < 宮 崎 県 軽貨物運送 >
燃料高騰の影響で厳しい環境が続いている。荷主に対して費用が増加している説明をしても、運賃に転嫁できないのが現状であり、今後も厳しい経営環境が続くものと思われる。

その他の非製造業

109. < 千 葉 県 輸出入 >
月半ばより外国人客の増加が顕著に現われ一気に客数、売上共に上昇した。旅客便の影響もあり、とくに午後から夕方にかけて接客対応に追われ、スタッフ数の充実が叫ばれるところまで来た。
110. < 神 奈 川 県 質屋 >
毎年6月・7月の営業成績はボーナスの出金状況に左右さる。ここ数年は不況でボーナスが少なかったと思われ、質屋の営業も低かったものの、今年は6月後半より7月中旬まで好調な成績をおさめた。
111. < 新 潟 県 砂利採取 >
7月度の骨材生産量は、前年同月比で82.4%、1月から7月までの前年累計比で85.2%である。6月30日に知事等が発出した「適切な価格転嫁に向けた緊急要請」の速やかなる実施に期待したい。
112. < 奈 良 県 質屋 >
旺盛な国内需要により、ブランドバッグや高級時計などの小売り商材は依然高い相場を維持している。為替相場が再び円安になってきており、海外向けのブランドジュエリーの相場が上昇傾向にある。
113. < 岡 山 県 信用組合 >
コロナ禍前より業況が思わしくない企業の資金繰りが悪化している傾向にある。現在、本業支援、資金繰り支援の両輪で支援強化を図っており、事業者にも密着した営業活動を継続して行っている。
114. < 広 島 県 不動産 >
前月比では、前月に受注した一般鑑定作業の入金があり売上高、収益状況が好転している。前年同月比も今期は一般鑑定が増加しており、売上高、収益状況、資金繰りは好転している。